

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和元年 8 月 20 日

所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	横山実玖歩

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)

東京都・東京国際フォーラム

2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)

キッズジャンボリー

3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)

令和元年 8 月 12 日 ~ 令和元年 8 月 15 日 (4 日間)

4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)

5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)

写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

キッズジャンボリーでは、野生動物について知ってもらうことを目的に、幼稚園児・小学生の子どもたちを対象にアウトリーチ活動をおこなった。霊長類研究所ではヒト、ゴリラ、テナガザル、ニホンザルの身体の模型を使用して、霊長類のロコモーションについて考えてもらうブースを設置した。3 日間で数百人の来場者があり、子どもから大人まで幅広い年齢層の人々に説明をおこなった。模型とポスターを用意したことで、模型に触れて遊んでもらう段階から、模型とポスターを合わせた専門的な説明をする段階まで、来場者の発達や興味に合わせた説明をおこなうことができた。説明後、実際に動物園に行つて霊長類が歩いている姿を見に行きたくなった、と言ってくれる来場者もあり、野生動物に興味を持ってもらうという目的はおおむね達成されたのではないかと感じた。

また霊長研から参加したスタッフは外国人が多く、企画や準備はすべて英語でおこなわれた。英語を使用してディスカッションを行つて進めていく経験は初めてであり、自分の英語力を向上させるいい機会となった。

今後もアウトリーチに関わるイベントに積極的に参加していきたい。



霊長研が出展した、霊長類のロコモーションに関するブース

6. その他 (特記事項など)

本イベントには PWS の支援を受けて参加しました。お礼申し上げます。